

科目・コース（ユニット）名： 現代 SF 学
英語名称：Contemporary Science Fiction Studies

【担当責任者】 下村健寿（病態制御薬理医学）、松岡有樹（総合科学教育研究センター）

【連絡先】 pharm@fmu.ac.jp

【開講年次】 1 年, 【学期】 後期 【必修／選択】 選択,

【授業形態】 講義

【概要】 本講義「現代 SF 学」は、サイエンス・フィクション(SF)を通じて、科学・医学・技術と人間社会の関係性を多角的に考察することを目的とする。SF 文学、SF 映画、特撮作品を主要な教材として取り上げ、それらに描かれる科学的発想、未来像、生命観、倫理観が、実際の自然科学の発展や社会的課題とどのように関係しているかを検討する。講義では、国内外の代表的 SF 作家の思想的背景や作品解釈を紹介するとともに、日本の特撮文化（本県出身の特撮監督、円谷英二による怪獣映画・特撮作品等）における科学観・身体表象・災害観の変遷についても扱う。また、AI、遺伝子工学、脳科学、感染症、環境問題など、現代医学・生命科学と密接に関わるテーマを取り上げ、フィクションに描かれる想像と現実の科学的知見との相違や接点を批判的に読み解く力を養う。

【学習目標】

- SF 作品を科学・社会の視点から多角的に分析することができる
- SF に描かれた科学的設定と実際の科学的事実との違いや共通点を説明できる
- 生命科学に関わる倫理的課題を SF 作品を通じて具体的に考察できる
- 特撮作品に表現された技術的発展・科学観の変遷を歴史的文脈の中で説明できる
- SF 作品を単なる物語としてではなく、思考実験として読み解くことができる
- 現代社会の科学や技術、環境が抱える課題を SF の視点から批判的に検討できる

【教科書】 指定しない

【参考書】 アーサー・C・クラーク「2001 年宇宙の旅」（ハヤカワ文庫）
伊野隆之 「樹環惑星—ダイビング・オパリアー」（徳間文庫）

【成績評価方法】

成績評価は、1) レポート、2) 授業態度に基づいて行う。

- レポート課題
指定された SF 作品について、科学的・医学的観点および社会・倫理的観点から考察したレポートを提出する。
論理構成、理解度、独自の考察を評価対象とする。
- 授業への参加度・発言・討論への貢献
講義内ディスカッションへの積極性、他者の意見を尊重した議論姿勢を評価する。
- 出席については規定に基づき、原則として2／3以上の出席を要する。

【学習上の注意事項】

本講義では、SF 作品（文学・映画・特撮等）を教材として扱うため、授業前後に指定された作品や資料に目を通しておくことが望ましい。

- 講義内容には医学・生命科学・物理・情報科学・社会科学など複数分野が関係するため、専門用語や概念について主体的に調べながら学習する姿勢を求める。
- 授業では意見交換や討論を行うことがあるため、他者の意見を尊重し、建設的な態度で参加すること。
- SF 作品の解釈に「正解」は一つではないが、根拠に基づいた論理的な説明を心がけること。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名	備考
1	2027/2/15	月	4	（講）現代 SF 概論	松岡有樹	
2	2027/2/15	月	5	（講）映画鑑賞	松岡有樹	
3	2027/2/15	月	6	（講）映画鑑賞	松岡有樹	
4	2027/2/16	火	3	（講）SF 映像論（1）	小菅昭彦	
5	2027/2/16	火	4	（講）SF 映像論（2）	小菅昭彦	
6	2027/2/16	火	5	（講）SF 映像論（3）	小菅昭彦	
7	2027/2/16	火	6	（講）SF 映像論（4）	小菅昭彦	
8	2027/2/17	水	3	（講）SF 文学論（1）	福島隆	
9	2027/2/17	水	4	（講）SF 文学論（2）	福島隆	
10	2027/2/17	水	5	（講）SF 文学論（3）	福島隆	
11	2027/2/17	水	6	（講）SF 文学論（4）	福島隆	
12	2027/2/18	木	3	（講）SF の歴史と未来	下村健寿	
13	2027/2/18	木	4	（講）映画鑑賞	下村健寿	
14	2027/2/18	木	5	（講）映画鑑賞	下村健寿	
15	2027/2/18	木	6	（講）映画鑑賞	下村健寿	

【担当教員】

教員氏名	職	所属	連絡先
松岡有樹	教授	総合科学教育研究センター	
下村健寿	教授	病態制御薬理医学	
福島隆	作家	日本 S F 作家クラブ会員	
小菅昭彦	記者	時事通信社	